

研究員 の眼

テーマ型のESG関連ファンドが人気 ～2021年4月の投信動向～

金融研究部 准主任研究員 前山 裕亮
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

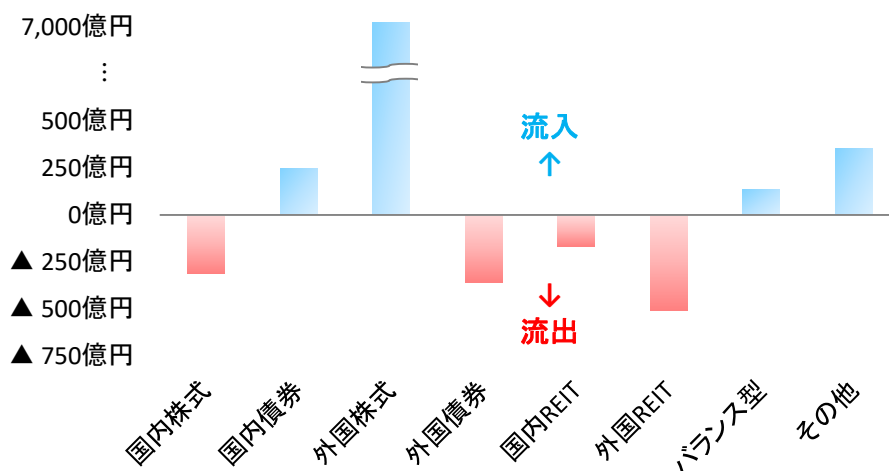


資金流入が全体的に鈍化

2021年4月の日本籍追加型株式投信（ETFを除く。以降、ファンドと表記）の推計資金流入をみると、外国株式に7,000億円の資金流入があり、ファンド全体で6,400億円の資金流入があった【図表1】。4月も引き続き大規模な資金流入があったといえるが、3月の9,300億円の資金流入と比べると大きく減少した。

資産クラス別にみても、外国債券以外のすべての資産クラスで3月と比べて資金流入が減少、資金流出に転じた、もしくは資金流出が拡大した。また、外国債券についても4月はSMA専用ファンドにまとまった資金流入があった影響で資金流出が3月と比べて減少したためであり、一般販売されているファンドに限ると資金流出が増加していた。3月の投信販売が好調過ぎた面もあるが、4月は資産クラスなどによらず全体的に販売にややブレーキがかかった、もしくは売却が膨らんだ様子である。

【図表1】2021年4月の日本籍追加型株式投信（除くETF）の推計資金流入



(資料) Morningstar Direct より作成。各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類。

外国株式アクティブ・ファンドの販売に陰りが？

外国株式には7,000億円の資金流入と3カ月連続で7,000億円以上の資金流入となったが、3月の7,300億円の資金流入からはわずかに減少した。外国株式をタイプ別にみるとインデックス・ファンドには1,700億円の資金流入があり、3月の1,500億円の資金流入から増加し、販売は堅調であった。特に4月は、米国株式のインデックス・ファンド2本（【図表2】青太字）に計600億円の資金流入があった。その一方でアクティブ・ファンドへの資金流入が5,300億円と3月の5,800億円から500億円ほど減少した。

外国株式のアクティブ・ファンドへの資金流入が3月から減少したといっても引き続き大規模であったが、4月は外国株式のアクティブ・ファンドの販売にブレーキがかかった可能性がある。というのも、外国株式のアクティブ・ファンドへの資金流入5,300億円のうち3,300億円が4月に新規設定されたファンド（【図表2】赤太字など）への資金流入であったためである。3月は資金流入5,800億円のうち3月に新規設定されたファンドへの資金流入が500億円であったことから、4月は新規設定されたファンドによって資金流入がかなり膨らんでいたといえる。

当月に新規設定されたファンドへの資金流入を除外すると、外国株式のアクティブ・ファンドへの資金流入が3月の5,300億円から4月は2,000億円と大きく減少した。そのことから4月は3月から大きく内容が変化したといえるだろう。

また、個別ファンドでも4月に新規設定されたファンド以外にも大規模な資金流入があった外国株式のアクティブ・ファンド（【図表2】緑太字）があったが、その一方で4月に資金流入が止まる、もしくは突然、大規模な資金流出に転じる外国株式のアクティブ・ファンド（【図表3】赤太字）もあった。これまで好調だった外国株式のアクティブ・ファンドの販売も一部では陰りが見え始めていることがうかがえる。

【図表2】2021年4月の推計純流入ランキング

ファンド名	運用会社	4月の推計純流入	純資産 4月末時点
1位 グローバル・エクスポネンシャル・イノベーション・ファンド	日興アセットマネジメント	2,924億円	2,862億円
2位 イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド	三井住友DSアセットマネジメント	531億円	709億円
3位 アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信D毎月(ヘッジなし)予想分配金提示	アライアンス・バーンスタイン	409億円	8,939億円
4位 eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	三菱UFJ国際投信	392億円	3,960億円
5位 デジタル・トランスフォーメーション株式ファンド	日興アセットマネジメント	322億円	6,630億円
6位 グローバルAIファンド(予想分配金提示型)	三井住友DSアセットマネジメント	302億円	1,371億円
7位 フィデリティ・世界割安成長株投信 Aコース(為替ヘッジあり)	フィデリティ投信	229億円	1,190億円
8位 フィデリティ・世界割安成長株投信 Bコース(為替ヘッジなし)	フィデリティ投信	228億円	1,289億円
9位 投資のソムリエ	アセットマネジメントOne	224億円	5,174億円
10位 SBI・バンガード・S&P500インデックス・ファンド	SBIアセットマネジメント	214億円	1,906億円

(資料) Morningstar Direct より作成。ETF、SMA 専用、DC 専用ファンドは除く。

【図表3】2021年4月に資金流入が止まった、資金流出が拡大したファンド

ファンド名	運用会社	①3月の 流出入	②4月の 推計流出入	差 ②-①	純資産 4月末時点
1位 グローバル・プロスペクティブ・ファンド	日興アセットマネジメント	602億円	▲30億円	▲633億円	9,789億円
2位 ティール・ロウ・プライス 米国成長株株式ファンド	ティール・ロウ・プライス・ジャパン	50億円	▲436億円	▲486億円	4,487億円
3位 グローバルESG/ハイクオリティ成長株株式ファンド(為替ヘッジなし)	アセットマネジメントOne	477億円	32億円	▲446億円	10,964億円
4位 One円建て債券ファンド2021-03	アセットマネジメントOne	269億円	▲0億円	▲270億円	269億円
5位 投資のソムリエ	アセットマネジメントOne	484億円	224億円	▲261億円	5,174億円
6位 デジタル・トランスフォーメーション株式ファンド	日興アセットマネジメント	499億円	322億円	▲177億円	6,630億円
7位 新興国ハイクオリティ成長株株式ファンド	アセットマネジメントOne	126億円	▲31億円	▲157億円	1,232億円
8位 netWIN GSテクノロジー株式ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント	▲42億円	▲173億円	▲131億円	6,968億円
9位 ワールド・リート・オープン(1年決算型)	三菱UFJ国際投信	0億円	▲125億円	▲125億円	11億円
10位 ロボット・テクノロジー関連株ファンド -ロボテック-	大和アセットマネジメント	145億円	24億円	▲121億円	2,479億円

(資料) Morningstar Direct より作成。ETF、SMA 専用、DC 専用ファンドは除く。4月と3月の資金流入の差で順位付け。

外国株式のアクティブ・ファンドは対面販売が中心になっており、販社の方針等の影響も大きく受ける。4月は、ただ単に新規設定ファンドに偏った投資推奨が行われただけの可能性もあるが、これまでの好調過ぎるくらいの高パフォーマンスをあげてきたため高値警戒感から外国株式のアクティブ・ファンドへの投資を見送る、または一部を売却に動く投資家も増えているのかもしれない。市場環境の影響に加えて、大規模な資金流入が続いているだけに外国株式への投資余力が少なくなっている投資家自体も増えていることも考えられる。いつまでこのような外国株式、特にアクティブ・ファンドへの大規模な資金流入が続くのか、今後の動向が注目される。

ESG関連ファンドが引き続き関心を集めているが

なお、4月は「グローバル・エクスポネンシャル・イノベーション・ファンド」、「イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド」などESGに関連するアクティブ・ファンドへ大規模な資金流入があった。引き続き投資家のESG投資への関心の高さがうかがえる。ただ、その一方でESGに関連するアクティブ・ファンドの火付け役となった「グローバルESGハイクオリティ成長株式ファンド（為替ヘッジなし）」（【図表3】3位）は、2020年7月に設定されて以来、毎月400億円を超える資金流入があったが、4月は32億円の資金流入とその勢いがほぼ止まった。

ここで一概にESGに関連するアクティブ・ファンドといっても上記の3本で投資手法が異なる。4月に人気を集めた「グローバル・エクスポネンシャル・イノベーション・ファンド」と「イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド」はテーマに沿った銘柄選択をしている、いわゆるテーマ型ファンド（投資）である。それに対して4月に資金流入が止まった「グローバルESGハイクオリティ成長株式ファンド」は、あくまでも投資先を選ぶ際にESGも考慮して銘柄選択（ESGインテグレーションなどと呼ばれる）を行っているファンドである。

最近では、この2本以外にもESG、特に環境に関するテーマ型ファンドがよく新規設定されている。個人投資家にとってESGインテグレーションよりコンセプトが分かりやすいこともあり、ESGに関するテーマ型ファンドが投資家に受けやすくなっているのかもしれない。今後、投信市場においてもESG投資が一過性のブームで終わらず定着していくのかと合わせて、どのような投資手法が投信市場で定着していくのかにも注目していきたい。

内外RETIには戻り売り

バランス型も資金流入こそ継続していたが流入金額が100億円と3月の1,000億円から大きく減少した。3月のバランス型への資金流入は新設ファンドで資金流入が膨らんでいたことに加え、4月はそれまでバランス型の資金流入を牽引していた「投資のソムリエ」（【図表3】青太字）への資金流入にもやや陰りが見えた。それらの特定のファンド以外では、3月でも積極的にバランス型に投資されている様子は見られなかったこともあり、3月の流入規模は続かなかった。

また、国内株式は4月にTOPIXや日経平均株価などが2020年10月以来半年ぶりに月間で下落したが、300億円の資金流出に転じた。SMA専用ファンドから300億円強の資金流出があり、一般販売されているファンドに限るとほぼ資金の出入りがなかったが、株価が下落したといっても引き続き高値圏で推移していたこともあり、積極的に国内株式に投資する投資家は少なかった様子である。

それに加えて4月は、国内REITも資金流入から資金流出に転じ、外国REITは資金流出が加速した。国内REITは流出金額こそ100億円と小さかったが、資金流出は2020年2月以来のことである。また外国REITは2020年10月から資金流出が続いているが、それまでは流出金額が200億円前後であったのが4月は500億円と膨らんだ。外国REITからの資金流出が500億円を超えたのは2018年10月以来のことである。

内外問わずREITは株式などと比べてコロナ・ショック後の価格の戻りが緩慢であったが、この3月もしくは4月にコロナ・ショック前、つまり2020年2月以前の水準に戻ってきている。そのため、4月は内外REITともに戻り待ちをしていた投資家の売却によって資金流出が膨らんだものと推察される。REIT価格が今後も堅調な展開が続くようだと、ファンドからの資金流出が当面続く可能性があるだろう。

3月までの反動で4月に高パフォーマンスに？

4月に高パフォーマンスであったファンドをみると、ハイテク系など一部のテーマ型の株式ファンド（赤太字）に加えてブラジル・レアルの通貨選択型などブラジル関連ファンドも好調であった【図表4】。2月下旬以降、米国の金融政策や長期金利の動向が意識され、ハイテク株やブラジル・レアルなどの新興国通貨の下落が目立った。4月はそれらが落ち着き反発したこともあり、関連するファンドの中に特に高パフォーマンスをあげるものがあった。

【図表4】2021年4月の高パフォーマンス・ランキング

	ファンド名	運用会社	4月の 収益率	過去1年 収益率	純資産 4月末時点
1位	ドイチェ・グローバルREIT投信(ブラジルリアルコース)(毎月分配型)	ドイチェ・アセット・マネジメント	12.4%	39.3%	39億円
2位	野村米国ブランド株投資(資源国通貨コース)毎月分配型	野村アセットマネジメント	12.1%	93.1%	25億円
3位	資源ファンド(株式と通貨)ブラジルリアル・コース	日興アセットマネジメント	12.0%	54.9%	79億円
4位	資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース>(毎月分配型)	日興アセットマネジメント	12.0%	55.1%	108億円
5位	USテクノロジー・イノベーターズ・ファンド(為替ヘッジあり)	三井住友DSアセットマネジメント	10.9%	64.9%	86億円
6位	サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジあり)	三菱UFJ国際投信	10.9%	55.5%	1180億円
7位	サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジあり)予想分配金提示型	三菱UFJ国際投信	10.9%	---	50億円
8位	ティール・ロウ・プライス グローバル・テクノロジー株式ファンド Aコース ヘッジ有	ティール・ロウ・プライス・ジャパン	10.8%	---	985億円
9位	日興ブラジル株式ファンド	日興アセットマネジメント	10.5%	41.1%	14億円
10位	フィデリティ世界医療機器関連株ファンド(為替ヘッジあり)	フィデリティ投信	10.5%	43.8%	172億円

(資料) Morningstar Direct より作成。2021年4月末残高が10億円以上のETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

(ご注意) 当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したものです。その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。